

1 心身の発達の過程・行動や言葉のサイン 子どもが生まれてから成長とともに変化する様相を理解し、それぞれの発達段階においてどのような課題があるのかを知り、そして、同じような行動をとったとしても、発達段階によりその対応が異なるということを理解しておくことが必要です。

発達区分(年齢)	乳児期(0~1歳)	幼児期前期(1~3歳)	幼児期後期(3~6歳)	学童期(6~12歳)	思春期(12~18歳)					
発達課題	基本的信頼感と基本的不信感	自律性と恥・疑惑	積極性と罪悪感	勤勉性と劣等感	自我同一性と同一性の混乱					
発達の特徴	母親との信頼関係を持つ 物を目で追う 排泄習慣ができる 人見知りが始まる(8ヶ月不安) ほほえみかけるとほほえみかえす(3ヶ月ほほえみ)	第一次反抗期 よいこと、わるいことを学習し道徳性を身に着ける 言葉を話すようになる 自分意識ができる 歩くことができる	遊びがひろがる 日常生活の基本行動ができる	家庭から学校へ 遊びをとあして運動機能を高める 仲間とうまくやっていくことを学ぶ 読み、書き、計算の基礎的な能力を発達させる	ギャングエイジ 仲間意識が強くグループで行動する 仲間と行動することにより友情を育むことができる 自分と他の人と比較してみる	第二次反抗期 両親や他のおとなから精神的に自立する 性に関する悩みが大きくなる 男性・女性としてその社会的役割を学ぶ 友だち中心の人間関係が強くなる 自分を見つめ直し新しい自分に目覚めていく	自我の確立 職業選択の準備を始める 家族離れが進む 社会的に責任ある行動がとれる			
子どもの行動や言葉	抱きつく 吸う 泣く ほほえむ・見る 後追い	歩き始め 話し始め「マーマー」 「ウマウマ」 排泄の自立「シーシー」 「ウンウン」 「ボクやる」 「見てみて」	投げると友達ができる 「けんかしちゃった」 「きらい」「どうして」 「これ何」 「OOちゃんのママ」「パパ」 「あっちいって」 「できるよ」	「あたらしいともだちできるかな」 「勉強したいなあ」 「勉強わかんないよ」 「できたよ」	「サッカーやりたいな」 「がんばってやってみる」 「放課後みんなで遊ぼうよ」 「OOさん、カッコいいね」 「OOさんはすごいんだよ」	「親なんか関係ないよ」 「面白くない」 「うるさい」 「むかつく」 「なんで勉強するの」 「おれ、カッコいい？」 「将来OOになりたいと思ってるんだ」 「ほっといてくれよ」 「自信なくしたよ」 「ガールフレンドがいたらなあ」 「ボーイフレンドほしいなあ」 「生きるってどういうこと」				
大人の態度や言葉かけ	与えるスキンシップ しっかり抱いて 「よくできたね」 おっぱい飲ませて 目を見つめて こたえてあげて 微笑みかけて	褒める・認める・ほめる 善悪の判断(モラル)をしっかりと教える時期です 「上手、上手」 「危険い」 「あ片づけしようね」 「熱いよ」 「手を洗ってからね」 「自分でやってみようね」 「すごいね」 「できたね」 「ごあいさつは」	制限・励まし 「よかったね」 「学校どう」 「お母さんにも教えて」 「そう、すごいね」	「よかったね」 「学校どう」 「お母さんにも教えて」 「そう、すごいね」	励まし・承認 うなずき、言葉かけが大切です 「やったね」 「楽しそうだね」 「よく我慢したね」 「やってみたら…応援しているよ」 「じっくりやれば大丈夫よ」	「あなたはどう思う」 「頼りにしてるよ」 「助かった、あなたがいてくれて」 「よくやったね」	「大人っぽくなったね」 「自分でしっかり考えてみようね」 「きみを信じるよ」 「みんなで協力してやってみよう」 「あなたの気持ちを聞かせて」 「できることは応援するよ」 「挑戦してみたら」 「相談にのってくれるかな」 「困ったときには相談にのるよ」			
からだや行動に現れるサインと出現するおよその時期	●ミルクを飲まない ●目が合わない ●発育が遅い	●泣かない、笑わない ●元気がない ●人見知りをしない	●しゃべらない ●呼んでも知らん顔している ●爪がみ、指なめ	●お漏らし、パンツの汚れ ●奇声を上げる ●登園しづり ●落ち着きがない ●園や学校で話をしない	●学校へいきたくない ●感情表現がとぼしい ●こだわりがはげしい ●簡単なルールが守れない	●友だちとあそべない ●髪や眉を抜いている ●服装がくずれる、またはだらしない ●体重が急に減った ●携帯電話を持つ ●こだわりのために行動にうつるのに時間がかかる	●給食を食べない ●話をしたがる ●頻りに腹痛、頭痛を訴える ●成績が低下する	●友達がいなく一人である ●たばこ、お酒に手を出す ●頻りに腹痛、頭痛を訴える ●成績が低下する	●ひきこもりがちになる ●自傷行為をくり返す ●昼夜逆転の生活が続く ●化粧、ピアス	●家に帰らない ●お金の使い方が荒い ●ねむれない ●人の視線、言動を非常に気にする ●不安が高じて行動できない ●ブツブツとひとり言が多い
からだがや行動に現れるサインと出現するおよその時期	児童虐待 ○保護者等が子どもに対し、身体的、心理的外傷を与える行動や言動をとること。育児放棄、監護放棄(ネグレクト)もこれに該当します。 ★子どもたちの表情・行動・体の傷等をよく観察しましょう。児童虐待が疑われる場合は、役場町民課、児童相談所へ通報する義務があります。	分離不安障害 ○子どもが、常に親と一緒にいたがったり、一人になることをひどく嫌がったりする状態をいいます。 ★スキンシップを多くしたり、きちんと話を聞いたりし、子どもとのふれあいを多くしましょう。赤ちゃん返りも大目に見て、小さな進歩をきちんと認めましょう。	学習障害(LD) ○やる気はあるのですが、読み、書き、計算など特定分野の学習に著しい困難さがみられます。 ★専門機関による検査を受け、その子の状況にあった個別の配慮や支援をしましょう。得意な面を認め、伸ばしていくことも重要です。	不登校・保健室登校 ○盛んにまばたきをしたり、首や肩を不自然に動かしたりする動作がみられます。 ★心理的原因や神経伝達物質(ドーパミン)の過剰分泌などの原因が考えられます。専門医に相談してみましょう。 叱ったり、無理にやめさせようとしたりしないで、おおらかな気持ちで接することで、二次的徴状を防ぐことができます。	強迫性障害(不潔脅迫、確認脅迫など) ○何でもないようなことが気になり、不安なイメージを打ち消すために、手洗いや掃除の確認などの行為を過度に繰り返します。 ★日常生活に差し障りがあるようなら専門医の受診をすすめましょう。本人の気持ちをよく聞いて、過剰な期待や厳しいつけなど、日常の言動について考えてみましょう。	性的逸脱行動 ○激しい運動や精神的興奮、心理的ストレスにより、急に息が吸えなくなってしまう。 ★安心感を与えるようにし、ゆっくりと呼吸を落ち着かせましょう。	家庭内暴力 睡眠障害 ○自律神経の異常や精神的不安、過度の緊張などにより、下痢や便秘、ガス過多による下腹部の張りなどがみられます。 ★症状による苦痛を理解するとともに、ストレスとなっているものをみつめ、緊張をやわらげ、少しずつストレスにたえられるようにしましょう。	パニック障害 ○ストレスなどが原因で、閉鎖的に狭い空間、広場などを歩行中に、突然、強い不安感に襲われ、動悸、息切れ、めまいなどの症状が起ります。 ★しばらく安静に過ごしていれば、多くは1時間以内に回復します。治療は、薬物療法や精神療法のため、専門医への受診をすすめましょう。		
からだがや行動に現れるサインと出現するおよその時期	かんしゃく ○病気、心理的ストレス、発達障害などの原因により、おねしょや衣服内での失禁等がみられます。 ★専門医の診断を受けるとし、原因とその子の状況にあった対応が必要です。	広汎性発達障害(高機能自閉症など) ○人とのコミュニケーションが苦手で、人づきあいがうまくいかないためにトラブルが多くなります。 ★その子の「こだわり」や「考え方」を理解し、学校や医療機関と相談しながら療育していきましょう。	いじめ ○身体上の性別など生まれに付随する性別と、自己認識(自分がどちらの性別に属しているかを感じる)の性別との間に食い違いを感じ、そのことによって生じる様々な障害のことをいいます。 ★本人の悩みを理解し、精神科領域の治療など専門医の受診をすすめましょう。	心因性頻尿 ○身体上の性別など生まれに付随する性別と、自己認識(自分がどちらの性別に属しているかを感じる)の性別との間に食い違いを感じ、そのことによって生じる様々な障害のことをいいます。 ★本人の悩みを理解し、精神科領域の治療など専門医の受診をすすめましょう。	過換気症候群(過呼吸) ○激しい運動や精神的興奮、心理的ストレスにより、急に息が吸えなくなってしまう。 ★安心感を与えるようにし、ゆっくりと呼吸を落ち着かせましょう。	腹鳴 ○自身の成長や人間関係などによるストレスから過度の食事摂取または、食事拒否等により、健康被害が起ります。 ★生命維持を最優先にし、専門医による治療等を考えましょう。話し合う機会を多くし、悩みを受け止めるようにしましょう。また、体重を定期的に測り、体重の急激な増減に気をつけましょう。	過敏性腸症候群 ○自身の成長や人間関係などによるストレスから過度の食事摂取または、食事拒否等により、健康被害が起ります。 ★生命維持を最優先にし、専門医による治療等を考えましょう。話し合う機会を多くし、悩みを受け止めるようにしましょう。また、体重を定期的に測り、体重の急激な増減に気をつけましょう。	リストカット(自殺企画) ○思春期、感情・思考の制御の障害や自己破壊衝動などにより、手首を切る自傷行為のことです。自分を殴る、ボールペンを突き刺す等の行動となってあらわれることもあります。 ★生命維持を第一に考え、傷の場所と深さや大きさを確認しましょう。傷の手当てをしながら、スキンシップに努めましょう。温かく受け入れるとともに、相談できる人と連絡を取りましょう。話を聞きながら落ち着かせましょう。		

*子どもたちの養育に関する悩みや心配事があれば、各保育所、幼稚園、幼稚園、学校の他、子育て支援室、教育委員会、町民課、健康福祉課、保健所、児童相談所などへ相談することができます。